

“絶対孝”の精神で1万2千人大会を勝利しよう

全国に先駆けて第5地区で出発式

VISION2020に向けて残り3年、全国的な組織改編が行われ日本家庭連合が新体制のもとで出発する中、真のお母様を日本にお迎えし、5月に第5地区（東京）で1万2千人大会が開催されることが発表されました。大会を通して、日本国民から「信頼と尊敬を受ける家庭連合」となっていくことが願われています。

昨年12月、福島教区福島家庭教会と岡山教区がそれぞれ、2000人大会と3000人大会を開催し、多くの新規ゲストが参加して大勝利しました。

そのことを徳野英治会長が真のお母様に報告すると、お母様は非常に喜ばれました。そしてお母様の方から「日本に県と言われるものはいくつあるの」と尋ねてくれました。

徳野会長が「47あります」とお答えすると、お母様は「県ごとに1万人会を準備できれば、私が直接行くよ」と語られたのです。

大会実現を通して新規伝道を爆発的に進め、実質的な教会成長につなげてほしいとお母様の願いが込められています。

2015年8月、「世界平和統一家庭連合」への名称変更が承認されました。社会の一員として受け入れられ、「市民権」を獲得したと言えます。

そうした基盤の上で、2016、17の2年間は、救国救世基盤造成の2段階目として、長子権復帰を通して、国家と国民から「信頼と尊敬を受ける家庭連合」となることを目指しています。

私たちが長子権復帰を成すためには、「数的基盤」の確保だけでなく、内部が「誇れる実体」となり、外部から認められる「社会的価値の創造」を成す必要があります。

日本家庭連合は、「誇れる実体」の造成と「社会的価値の創造」、「数的基盤」造成を3大戦略目標として掲げ、これらを達成するため、「改革の現場への浸透と定着」「ブランドの明確化と社会への価値提供」「二世圏の活性化と青年祝福の拡大」など6項目の重点活動を策定しました。



真のお母様



第5地区「1万2千人大会」出発式で



宋龍天総会長



決意表明する金満辰第5地区長（中央）

これらの重点活動の結実となるのが、まさしく真のお母様に直接侍って開催する「県別1万人大会」です。5月の東京大会に続き、11月には大阪や愛知、神奈川でも1万人大会が開催される予定です。

第5地区で大会勝利のための出発式

3月22日、東京教区新宿家庭教会で、^{ソンヨンチョン}宋龍天・全国祝福家庭連合総連合会総会長ご夫妻を迎えて「お母様をお迎えしての第5地区1万2千名大会勝利のための出発式」が行われました。

出発式では、^{キムマンジン}金満辰第5地区長が挨拶し、「今年1月11日の第5地区出発式において、宋龍天総会長が『東京のメンバーが先頭に立って、日本・世界の摂理を引っ張ってほしい。2万人の基盤をつくって、真のお母様をお迎えしましょう』と祝福してくださ

いました。その基台の上に5月14日、東京に真のお母様をお迎えします。どれほど素晴らしい祝福であり、大きな恩恵でしょうか。全体が一つになって真のお母様をお迎えし、大勝利・大復興する第5地区・東京となっていきましょう」と呼び掛けました。

続いて登壇した宋龍天総会長は、「VISION2020勝利のための核心要素があります。2013年、私が全国祝福家庭連合総連合会総会長に就任するとき、『絶対孝の精神で2020年に向かって進もう』と訴えました。2020年に向かう3年路程を出発するに当たり、真の父母様を東京にお迎えし、私たちが1万2千人大会の勝利を収めるための最高の原動力は何でしょうか。それはまさしく、全食口が一つになって絶対孝を実践することです。絶対孝の精神で行くならば、成せないものはありません」と強調しました。

また、「このような大会は、単に食口だけを動員し、打ち上げ花火のような大会にははいけません。私たちが日本国民の前に誇らしい実体を見せ、社会的価値を提供すると共に、天が願う数的基盤造成も実現させていく。そのようにして長子権復帰を果たすことができれば、私たちは必ずVISION2020を勝利することができます」と語りました。

最後に、宋龍天総会長は「今年1月3日の始務式（仕事始め）で、真のお母様は『今や摂理の春が来た』とおっしゃいました。この宣言のみ言を私たちが絶対信仰、絶対愛、絶対服従するようになれば、私たちがVISION2020を実現して救国救世基盤の造成を果たし、天の父母様の夢、天地人真の父母様の夢、そして私たちすべての夢が成されることは間違いありません」と訴えました。

茨城教区の「プロポーズ・フォー・ブレッシング」

真に幸せな家庭づくりを目指し、祝福子女も誕生



①「プロポーズ・フォー・ブレッシング」の一場面(3月19日)
②結婚生活の感想を述べる“先輩家庭”

3月19日、茨城県内の会場で「プロポーズ・フォー・ブレッシング」(PFB)が行われ、未婚の男女それぞれ20人が参加し、新たに11カップルが誕生しました。独身男女が「祝福結婚」を前提として出会うための場——それがPFBです。茨城教区では2013年から年3回のペースで行い、今回で12回目となりました。

茨城教区でPFBが始まった背景として、次の2点を挙げるができます。一つ目は、20～30年にわたってみ旨在勤しんできた婦人食口の息子・娘が教会に導かれていないこと。もう一つは、独身女性が伝道され、「統一原理」の核心が祝福であると分かって、相対となる男性が少ないため祝福を受けることができなかったことです。

そこで2013年に茨城教区長に就任した鄭泰奭^{チョンテソク}教区長(現祝福家庭総連合会総会長補佐官)がPFBを発案。同年9月に1回目が開催されました。

具体的な取り組みとしては、まず専属の女性担当者を立て、教会に通えなくなった信仰二世や教会員の親族などを限なくリストアップし、候補者と面談。地道に努力を続けていくと、少しずつ信仰二世たちがPFBに参加し、カップルになっていきました。彼らは、改めて原理を通して「真の家庭とは何か」を学んでいきます。“相対者”を横にして二人三脚で学習するという喜びの中で、原理の核心が心の中に入っていくようです。

一方、PFBが回を重ねるにしたがって、大きな壁にぶつかりました。参加候補者の女性は多くいても、男性が圧倒的に不足したのです。

ちょうどその時、伝道前線の壁にぶつかっていたCIGメンバーから「PFBの訪問伝道をさせてほしい」という提案がありました。

CIGがPFBにつなげる訪問伝道を始めると、すぐ

に対象者の“親”と出会っていききました。家庭連合主催であることを明示した上で、PFBの趣旨を説明すると、子供よりも親の方が切実で「是非ともうちの息子に会ってほしい」というケースが多かったのです。

その後、メンバーが対象者本人に会うと、結婚を希望する人も多く、これまでに43人がPFBに参加。そのうち25人がカップルとなり、交流を始めました。

そうした中、新規の男性と女性教会員のカップルが生まれるようになりました。多くの課題もありましたが、男性が増えなければ祝福家庭も増えないのは事実です。茨城教区は「教育には絶対に責任を持つ」という強い覚悟で取り組みを推進。①パーティー前の事前教育②祝福までの交流途中の教育③祝福を受けてからの教育——について試行錯誤しながら取り組んできました。

新規の男性は一般的な婚活パーティーに参加した経験がある人も多く、真剣に結婚(相手)に向き合い、真に幸せな家庭づくりを目指すPFBの雰囲気に感動する人もいます。

現在は、高橋清隆教区長が「PFBと書写のコラボレーションで、家族丸ごと復帰していこう」という方針を掲げ、親子でみ言を学び始めるようになったケースも出てきています。

茨城教区のPFBには、これまでの12回の開催で男性233人、女性253人の計486人が参加。そのうちカップルとして成立したのが118カップルで、カップル成立から祝福式参加にまで至ったのが21カップルあります。

PFBで出会ったカップルからは、2015年12月を皮切りに、今年1、3月にも相次いで祝福子女が誕生(計3人)するなど、PFBの機運はますます盛り上がっています。(家庭教育局・佐々木勝一)

“教育”と“出会いの場”づくりで後押し

第11地区「二世圏祝福」の取り組み

バクジョンピル
第11地区長 朴鍾泌



①「祝福二世のためのマッチング父母集会」に参加し、交流する二世たち
②「二世祝福準備修練会」で先輩家庭(左奥)を囲んで交流する参加者

第11地区(旧第12地区)では、「二世圏祝福」の取り組みにおいて、①危機意識を持つ②チームワーク③正確な目標設定④相談窓口の設置——を重視してきました。

具体的には、「二世圏祝福は家庭連合の未来を決定する。今の時を失えば永遠に機会を失ってしまう」という危機意識を共有しながら、家庭教育部長を中心に、マッチングアドバイザーが“父母の心情”でサポート。また明確な目標設定をした上で、定期的な教育の機会や出会いの場を準備するとともに、相談窓口を設けて、子女教育や家庭問題などの解決の道を模索してきました。

2016年度は、2月の元節後に1年間の計画を明確にして取り組みをスタート。関係各部署が責任を持って取り組みながら、スタッフが足りなければ、意識を持った先輩家庭や一般食口の中から“同志”を見つけ、基台をつくっていきました。

地区においては、地区家庭教育部長が“機関車”となり、教区・教会の担当者と連携して課題解決を行い、実績が出る流れをつくっています。その結果、目標に対し、135%を達成することができました(今年2月末現在)。

このような成果が上がったのは、1年間にわたって「教育」と「出会いの場」づくりを継続してきたことが要因です。

教育については、教区主体で「父母セミナー」を年間20～30回開催。地区次元では1泊2日の「親子セミナー」を2回行いました。親子セミナーに参加した

祝福候補者が、自らの課題を乗り越え、祝福を決意するケースも増えています。

出会いの場として企画しているのが、「プロポーズ・フォー・ブレッシング」(PFB)です。PFBの1週間後にはカップルセミナーを行い、必ず「教育」とセットで実施しています。昨年はPFBとカップルセミナーをそれぞれ6回行いました。PFBは、何があっても継続していく方針です。

そのほか、「祝福二世のためのマッチング父母集会」(年4回)と「信仰二世のためのマッチング父母集会」(年3回)を行い、父母と一緒に祝福候補者も参加しています。父母集会を経てPFBにつながるケースも多く、候補者が上昇気流に乗るきっかけとなり、大きな成果を上げています。父母にとっても、教会が責任を持って問題解決の場を設け、二世圏祝福への道を開こうとしていることに大きな希望を抱いています。

祝福の候補者認定の条件となっている「二世祝福準備修練会」は、今年3回行う予定です。初めて地元で開催した昨年は、例年より多くの候補者が参加でき、候補者認定数が大幅にアップしました。

二世圏祝福の取り組みは、今年も既に1年間の計画を明確にして出発しています。「全員を祝福に導くのは無理だ」という考えは捨て、あきらめずに道を探し求めていけば、さらに大きな成果に結びつくと考えています。

海外での経験を糧に日本でさらなる飛躍を決意

第四期天一国青年宣教師帰国報告修練会 & VISION2020 出発式



①修了証授与式で
②ディスカッションの結果を発表する宣教師
③修練会の一コマ

昨年5月に韓国・天正宮博物館に招請され、真の父母様から直接激励されて出発した第四期天一国青年宣教師62人のうち、大学生を中心とする17人が任地国から帰国したのに合わせ、3月13日から17日まで、宮崎台国際研修センター（川崎市）で「第四期天一国青年宣教師帰国報告修練会 & VISION2020 出発式」が開催されました。参加したのは派遣国14カ国のうち11カ国から帰国した宣教師で、全員が祝福二世です。

修練会の前半は、宣教体験の共有と総括の時間を持ちました。

1日目は11カ国すべての活動報告がなされ、約9カ月間の歩みを共有。任地国は異なっても、真の父母様とみ言を伝えるためのそれぞれの歩みは強い共感を呼び起こしました。また、「グローバルリーダーとして必要とされる資質」と「宣教国の教育体制の問題点と解決法」についてディスカッションを行いました。

2日目は、宣教師一人ひとりの証しを共有。夕方からは、「天宙平和士官学校」(UPA)を今年卒業し、アフリカの任地国を与えられた宣教師2人からメッセージを受ける時間を持ちました。

3日目は、午前中に飯田智史・国際宣教部長から宣教総括の講義を受けた後、宣教に出発した当時の映像を視聴しながら、宣教師に与えられた恩恵とこれからの使命について考えました。

修練会後半は、最近の真の父母様を中心とした摂理や日本の活動について報告を受けました。

その中で、田中富広副会長は、今年2月に韓国で行われた真の父母様聖誕記念行事等について報告。天に対す

る“孝情”を学ぶ時間となりました。

そのほか、竹内啓晃青年学生局長や本山勝道 CARP 会長などが、日本の大学生圏およそ1200人が参加した「Japan TOP GUN College」(2月・韓国)や、日本における大学生を中心とした摂理に関する講義を行いました。

徳野英治会長を迎えて行われた修了証授与式では、代表者2人が宣教の証しを行った後、徳野会長が「私は宣教の先輩です」と述べながら、言語（特に韓国語、英語）の重要性や祝福二世として信仰を自立していく必要性を強調しました。

最終日の閉会式及び出発式では、田中副会長が、家庭連合の目指すビジョンと宣教師たちがこれから日本で果たしていくべき使命について解説。宣教師たちは日本を新たな宣教国とする決意を固め、再出発していきました。

宣教師の「決意文」より

■「宣教期間に一番実感したのは、伝道を通して私自身が清められ、神様に近づくことができるということです。この経験を生かして、改めて日本で天一国宣教師として出発できることを感謝します」(M・Sさん)

■「宣教師として歩んだからこそ、真のお母様の愛を実感し、実体を備えるべきであることを肌で感じる事ができました。日本においても『真の父母は自分の父母である』と確信しつつ、『宣教師としての歩みはこれからだ。親孝行していこう』と再び決意しています」(I・Yさん)

信頼と尊敬を受ける家庭連合となろう

宋総会長ご夫妻が第5、第6、第8地区を訪問



①第8地区の責任者集会に出席した宋龍天総会長(3月25日、大阪家庭教会) ②第6地区の出発式で(3月19日、長野家庭教会)
③歌を披露する第8地区の婦人代表たち(3月25日、大阪家庭教会) ④第6地区の青年の話聞く李海玉夫人(右端、3月19日)

3月後半、宋龍天総会長ご夫妻は第5地区(東京)、第6地区(北陸信越)、第8地区(近畿)を訪れ、出発式などで時のメッセージを語りました。以下は19日に行われた「新第6地区出発式」の報告です。

第6地区本部がある長野家庭教会(長野市)で行われた出発式には、地区全体の牧会者・婦人代表と北長野教区の食口が集い、合わせて約500人が参加しました。

代表報告祈祷、裴夢周第6地区長の歓迎の挨拶に続き、崔俸準新潟教区長と稲葉優子富山教区婦人代表が宋総会長ご夫妻へ花束を贈呈しました。

次に李海玉総会長夫人が登壇し、以下のように語りました。

「長野に来るたびに真のお母様をお迎えした事を思い出します。お母様が『自分の家だから早く行こう』と言われたように、私たちも自分の家に行くつもりで朝4時に起きて準備し、わくわくした思いで長野家庭教会にきました。……私はいつも総会長に感謝しています。朝起きたばかりの私を見て『美しい!』と讃美してくれるの

です。(自分で見て)とても美しいとは言えない顔なのに、それを純粋に美しいと言ってくださる総会長は、私を娘のように見ているのだと理解しました。私たちもそのような四大心情圏を持てば、真の父母様が見つめられる目で見つめることができるようになるでしょう」

続いて、宋総会長が「VISION2020 勝利戦略」について語りました。

宋総会長は、天の父母様と真の父母様を絶対的中心とした「孝情」の信仰の重要性を強調。救国救世盤造成のためのロードマップを示し、「2017年は“長子権復帰”を成し、信頼と尊敬を受ける家庭連合を目指していきましょう」と力強く語りました。

最後に、“長子権復帰”のための2017年主要戦略として、家庭連合のブランドの明確化や二世圏の活性化と青年祝福の拡大、県別1万名大会盤造成などを進めていく考えを明らかにしました。

午後からは、地区の壮年部長と壮年部中心スタッフが集まった会合と青年圏の会合が並行して開かれ、宋龍天総会長が壮年集会で、李海玉夫人が青年集会でメッセージを贈りました。

“壮年は天一国時代の摂理の主演となれ”

徳野会長が兵庫、三重、沖縄などを巡回



①兵庫教区の青年に向けてメッセージを語る徳野会長（3月18日、兵庫家庭教会） ②徳野会長のメッセージを聴く青年メンバー（同） ③壮年集会で歌を披露する「兵庫教区ファーズ」（3月19日） ④兵庫教区特別礼拝で（同）

徳野英治会長は3月後半、兵庫、三重、沖縄各教区などを訪れ、礼拝や特別集会でメッセージを語り、多くの教会員を激励しました。その中から、兵庫教区の「青年」と「壮年」の特別集会の様子を紹介します。

3月18日夕、兵庫家庭教会（神戸市）に徳野会長を迎えて、「兵庫教区成和青年の集い」が行われ、約80人が参加しました。

集いでは、青年メンバーが「カントリーロード」の歌を披露した後、朱鎮台第8地区長が挨拶しました。

続いて、徳野会長が青年に向けたメッセージを語り、①明確な目標・夢を持つ②語学を習得する③動機の自立④祝福を受ける⑤霊の子女をつくる——の5点を強調しました。

自らの体験談を踏まえて語る徳野会長の熱いメッセージを受け、参加者たちは、二世青年圏にかけられる天の願いの大きさを再確認しました。

3月19日午後、兵庫家庭教会で「兵庫教区壮年特別集會」が行われ、教区全体の牧会者や壮年部長など

160人が集まりました。

集會では、「兵庫教区ファーズ」が日頃の練習の成果を発揮して歌を2曲披露した後、陸泰昊兵庫教区長が挨拶しました。

引き続き、徳野野会長が登壇し、「壮年は、復帰された天使長から復帰されたアダム^{ユクテホ}の立場に立っています。天一国時代が開かれ、いよいよ夫婦が一体となって摂理を担当する時代となりました」と説明。「壮年が主人意識を持って摂理の主演となり、夫婦が一体化しなければ氏族伝道は不可能です。壮年が祈禱と訓読の精誠を通して、妻と同じレベルに成長していくことが重要です」と述べました。

また、徳野会長は壮年メンバーに対し、①救国救世基盤の摂理に責任を持つ②神氏族メシヤ活動の主演となる③子供や孫の教育に責任を持つ④健康診断を受け、健康管理をする——ことを訴えました。

徳野会長の親しみやすく率直なメッセージに参加者の多くが感銘を受け、神氏族メシヤ活動と救国救世基盤の造成に向けて決意を新たにしました。

李海玉総会長夫人が熊本教区巡回

熊本地震の被災地で祈禱



①熊本教区特別礼拝で ②特別礼拝で説教する李海玉夫人 ③聖歌隊による讃美 ④南阿蘇村の大矢岳に登った李海玉夫人ご一行

3月11日から13日までの3日間、李海玉総会長夫人が熊本教区を巡回しました。

11日、李海玉夫人は熊本空港到着後、直ちに熊本教区の牧会者や婦人代表、青年メンバーなど21人で南阿蘇村にある標高1220mの大矢岳に登り、昨年の熊本地震で一番被害の大きかった阿蘇の山を視察。この日はくしくも「東日本大震災」6周年でもあり、李海玉長夫人は山頂で深い祈禱を捧げました。

その後、李海玉夫人は青年学生特別集會に参加しました。集會では、青年メンバーが「孝心」の曲に振付けを加えたダンスと合唱を披露し、代表5人が証しを行いました。

李海玉夫人は青年たちに対し、神様の計画の下で一人

ひとりの能力が準備されていることや、メンバーたちが一つになって助け合う兄弟姉妹文化の大切さを訴えました。

3月12日、熊本阿蘇家庭教会で「熊本教区特別礼拝」が行われました。李海玉夫人は説教で、「今は宗教の時代を越えて家庭の時代です」と強調。また、真のお父様に近く侍ったときのエピソードなどを語りました。

午後からは「南九州 韓日・日韓家庭特別集會」が行われ、50人以上の食口が参加。李海玉夫人は日本に来て苦労している韓国食口を慰労し、深い愛情を注ぎました。

3月13日には、城北家庭教会（熊本県玉名市）で特別集會が行われました。

「在日韓国婦人会」第7期総会を開催

3月18日、東京・渋谷の松濤本部で、在日韓国婦人会の第7期総会が開催されました。

総会では、姜京姫会長の離任式が行われ、姜会長の2年間の活動に対し、平和統一聯合中央本部の金榮齋会長の代理として金源植事務総長から功労牌

が贈られました。

また、李海玉総会長夫人が講話を行い、「韓国婦人たちが真のお母様の代身として信仰姿勢を示し、一つになって南北統一を果たしましょう」と訴えました。



総会の参加者

右から姜京姫前会長、李海玉夫人、金源植事務総長



三重で新春安保講演会

3月20日午後、三重県津市内の会場で第2回「三重県新春安保講演会」（主催：三重県平和大使協議会）が開催されました。

主催者挨拶などに続き、最近の国内外の動向をまとめた映像を上映。会場が緊張感に包まれる中、徳野英治「平和大使協議会」会長が登壇し、「激動する世界情勢と日本の行くべき道」と題して基調講演し

ました。

その中で徳野会長は、国外から迫る危機以上に深刻な国内問題として「少子化」や「家庭倫理の崩壊」などを挙げ、家庭の価値が危機に瀕していると強調。また、米国のトランプ新政権や北朝鮮の動向などに触れた上で、韓国と友好関係を保つための5つのポイントを分かりやすく紹介しました。



①徳野会長の講演を聴く参加者
②会場を魅了したオープニングの楽器演奏と合唱

愛媛、群馬などで自叙伝書写大会

3月12日、愛媛教区で「書写2000名大会」が行われました。オープニングの伊予水軍太鼓の演奏、壮婦・青年・学生・幼児が一つになって作り上げたミュージカル公演の後、徳野英治会長が「人生で最も大切なものは？」と題して講演を行いました。

15日には、群馬教区に浅川勇男先生を迎え、「第62回自叙伝心の書写奉納伝授式」を開催。新規のゲスト120人を含む約500人が参加しました。



群馬教区の「自叙伝心の書写奉納伝授式」の参加者



講演する浅川勇男先生

山形教区で「天運相続還元祈願奉献式」

3月20日、山形教区では、韓国・天宙清平修練苑の李命官副苑長を迎えて「天運相続還元祈願奉献式および清平特別講演会」を開催しました。



李命官副苑長による講演



祈願書の奉献式

東大阪教区が「ファミリーソフトボール大会」

3月20日、東大阪教区はファミリーソフトボール大会を開催。壮年と青年メンバーが参加し、ソフトボールで汗を流しながら交流を深めました。



ソフトボール大会の参加者



バッティングをする少年